

Devil May Stratos. ~Devil or I.S?~

eeeeVIL

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

一枚の張り紙が電信柱に貼られて、風に煽られている。

『Devil May Cry』

何でも、便利屋。

お客様のご要望にお応えする様に努力しています。

落し物から、犬の捜索まで、様々な依頼を引き受けます。

詳しい仕事の依頼は、以下の電話番号に電話して下さい。

000-XXXX-XXXX

※合言葉を言う方は、特別優遇。

今日もこの店に厄介な要件が舞い込んでくる。

『ジリリリリリ……ガチャ』

店の中で、黒電話が鳴り響く……

男は、黒電話の受話器を取り耳に当て、言葉を発する。

「Devil May Cry?」

※注意点※

1, これは、Devil May Cryとインフィニット・ストラトスのクロスオーバーです。

2, 処女作なので、うまく書けるか分かりません。

3, 設定がごちゃごちゃ

4, 不定期更新

5, 自己満足

6, Devil May Cry 5後の話

以上が苦手な方は、ブラウザバックをオススメします。

それでもいい方は、Let's party!!

目次

Mission. 0. 『昔話』	1
Mission. 1 『依頼』	4
キャラ紹介※ネタバレ注意※	10

Mission. 0. 『昔話』

『2000年前』

この世は二つの世界に分かれていた。我々人類が住む、ヒューマンサイド人間界。悪魔たちが住む、デビルサイド悪魔界。

この二つの世界は、決して交わることがない世界のはずだった。しかし、悪魔界に住む魔界の王『ムンドウス』は、人間界を支配しようと手下の悪魔たちを連れ侵略を始めた。

人間界に住む人々は、手下の悪魔たちによって次々と殺されていき、人々は恐怖と絶望に支配されていた。それでも、生き残った人々は神に毎日祈りを捧げ助けを求めたのだった。

この人々の祈りを聞き、ムンドウスの手下である1人の悪魔が正義に目覚め、悪魔界、ムンドウスを裏切り人間の為に戦い、ムンドウスを封印する事に成功する。その悪魔の名は『スパード』。

スパードは、人々から感謝され崇められ人々の英雄となった。それから時が経ち、スパードは恋をした人間『エヴァ』との間に2人の兄弟を授かっていた。兄の名は『バージル』弟の名は『ダンテ』と名付け可愛がつており、順風満帆な生活をしていた。しかし、封印した筈のムンドウスが蘇り、スパードへの復讐のため人間界へと再び侵攻を開始した。

それを防ぐ為スパードは、バージルとダンテに護身用にと自分の武器を与え、1人悪魔界へと消えて行った。しかし、悪魔界の中で、スパードとはある悪魔によって命を奪われて生き絶えてしまう。更に妻であるエヴァはムンドウスの手によって殺されてしまう。

生き残ったダンテとバージルは、母と父を殺した悪魔達に復讐心を覚え、ムンドウスを倒すべくデビルハント悪魔狩りを開始した。ダンテは便利屋という表向きな仕事だが、裏では悪魔狩りや悪魔の情報を得る事を生業とする店『DevilMayCry』という店を開いた。もうバージルは、自らの手でムンドウスを倒す為に、『力』を求め世界各地へと飛び回った。

そして、時が経ちダンテとバージルは違う道を歩みながらも、その中でそれぞれ出会い、別れ、裏切り、共闘を繰り返し、ついに元凶である魔界の王ムンドウスを倒す事に成功する。しかし、兄であるバージルは更なる力を求め、新たな魔界の王になろうと決意する。ダンテはそれを止めるべく、バージルとの戦いに身を投じた。

この戦いは、何年も続きどちらか死ぬまで、戦いは終わる事はなく何年もの時が経った……

そして現代、今この世は新たな時代の幕開けを迎えようしていた。

その日、1人の人間が作った物によって世界の全てが変わった。

そして、それは2人の兄弟の運命をまた結び付ける事になる。

いま、新たなる戦いが幕を開ける……

M i S S i o n . 1 『依頼』

ここは、とある町。空はいつも暗く曇っており、毎日夜の様な天気
が特徴的な町である。そんな町には、何でもやってくれる便利屋があ
る。大きい道から、ちよつと外れ裏路地に入った所にその店はあつ
た。

その店は、店と呼べるのか怪しいくらいボロく、廃墟の様だ。だが、
店前には大きなネオンの看板が出ており、そこには『D e v i l M
a y C r y 』と書いてある。

その中に1人の男が椅子に座り机に足を乗せ寝ていた。彼の名は
『ダンテ』この店のオーナーであり、悪魔と人間の間で産まれた『半人
半魔』の男である。

『ジリリリ…：ジリリリ…：』

その廃墟の中で黒電話が鳴り響く。その音を聞き、男は眠りから覚
める。

「ふああ〜たく、折角寝てたのに」

男は面倒くさそうに、黒電話の受話器を取り耳に当てた。

「D e v i l M a y C r y ?」

これは、彼が考えた電話での依頼を受ける際に言う挨拶みたいなも
のである。と言つても、掛けてくる人間は代々が意味が分からないだ
ろうと彼は言う。

『あら？ダンテ。まさか、寝てたの？』

受話器の奥からは、女の声で彼の名前を呼ぶ声が聞こえて来た。更

に、彼女は彼が先程まで寝ていた事を知っているかの様に話した。

「ああ、トリツシユか？何の用だ？」

『何の用だ？じゃないでしょう。今日からあの仕事よ』

「あの仕事？」

ダンテは、座っていた椅子から立ちがり、店の掲示板に貼ってあるカレンダーに目をやった。そして、今日の日付けの所を見てみると、その日付けの数字に◎が書かれており、下には『Japan』と書いてあった。

「ああ、そうか。そう言えばそうだった」

『早く来てよね。私達はもう出発してるんだから』

「あー、はいはい。すぐ行く」

ダンテは面倒くさく答えると、持っている受話器を後ろに投げた。受話器はくるくると回り元あった場所に黒電話の上に戻った。

「さて……」

ダンテは、いつも自分が着ているだろう赤いコートを手に取り、手を通した。そして、壁に刺さっている愛用の武器へリベリオンを背中に背負い、愛用の銃へエボニー&アイボリーをコートの中にあるホルスターにしまった。

「行くか！」

ダンテは、ドアを勢い開け外に出て行った。

2時間後、ダンテは最近の依頼で手に入れたバイク型の武具、ヘキヤバリエールに跨りながら空を眺めていた。かなりの距離を走った為か、ダンテの顔には少し疲労の様子が伺える。

なんと言っても、彼は受けた依頼の為に日本に行かなければならない。いまの時代は、飛行機に乗ればいいものを、彼は飛行機が大の苦手な乗り物である為あり得ない距離をキャバリエールで走り、日本に向かっている。

「たく、あんな依頼受けるんじゃないかったぜ」

ダンテは、バイクの上へと器用に寝転び先月の事を思い出し出していた。

先月のある日、 Devil May Cryに1人の男が来ていた。その男は、ダンテにとある依頼を持ち込んできた。

「ああ？ボディーガード？」

「そうです。1人の学生を守って貰いたいです」

その依頼は、1人の学生を守るためボディーガードをして欲しいと言うものだった。

「はあ？悪いがお守りはごめんだ。帰ってくれ」

「何故です？」

「逆になんで俺が、ガキのお守りをしなきゃいけないんだ？」

男に対し、皮肉こそもった口調で言葉を返した。しかし、男は動じ

ず一枚の封筒をダンテの前に出した。その中には、何枚かの写真が入っていた。

「これは？」

「1週間前、日本政府が撮影した写真です。あなたなら見覚えのあるだろうと、聞きましたね」

ダンテは、写真を手に取り見てみると、そこには自分のよく知る奴らが写っていた。

「これは…… あ「悪魔ね」」

ダンテの喋りを遮る様に女が、入り口から入ってきた。

「おい、トリツシュ。この人は俺に、用事があるんだ。お前は引っ込んでろよ」

彼女の名は『トリツシュ』。彼女は、かつてダンテに悪魔退治の依頼をしてきた人間の1人で、その依頼の際にダンテに救って貰った事をきっかけに、この Devil May Cryでダンテの手伝いをしている。そして彼女はムンドウスが作り出した純粹な悪魔なのである。

「いいえ、ダンテ。その依頼は私達の為に受けるべきよ」

そして、もう1人女がダンテに向け言葉を発しながら、店の中に入ってきた。

「お前もか、レディ」

彼女の名は『レディ』。彼女はダンテが自分の兄である、バージルの企みを止める際に出会ったのがきっかけとなり、最初は決別をしていたが、その後ダンテと和解をしバージルの企みを阻止する事を決意し、企みを阻止した。そして、その後ダンテの店に入り浸る様になり、手伝いをしている。

「えっと、あなた名前はなんて言うの？」

「おっと、これは失礼。遅れながら、私の名前は河原翔カワハラシヨウと言います。どうぞお見知り置きを」

男は、自分の名を名乗りこの場にいる3人向け頭を下げた。

「それで？その写真本物なの？」

「ええ、間違いありません。その際に撮影した者達、全員が口を揃えて『悪魔を見た』と言っていましたので」

「ふーん、それなら間違いなさそうね」

「そうね、私もそう思うわ」

「おいおい、簡単に信じて大丈夫なのか？まさか、お前ら日本に行けるからって受ける訳じゃねえーよな？」

ダンテは、簡単に信じてしまったトリツシュとレデイに向かい、疑いの目を向けていた。彼女らは、前から日本に行きたいと言うのをダンテは聞いていた。

「何言ってるの？ダンテ。私達の仕事は、悪魔を倒す事でしょう？」

「そうよ。私達にぴったりの仕事じゃない？」

しかし、2人はやれやれとダンテは、頭を抱えて笑っていた。

「結局受けてくれるって事でよろしいのでしょうか？」

「仕方ねえ！久しぶりに悪魔退治と行こう！」

ダンテは仕方なく依頼を受ける事にした。レデイやトリツシュ、そして翔も嬉しそうに笑っている。

「貴方達なら、受けてくれると信じていましたよ」

翔はそう言うと、ダンテの前にカレンダーを差し出した。そのカレンダーには、とある日付けに◎が書かれていた。

「この日に、日本に来てください。今よりも詳しく説明をさせていただきます」

翔はそう言うと、そのまま入り口に向かい歩き出した。そして、ふと何かを思い出した様に振り返り、ニコツと笑い去って行った。ダンテ達は、その笑顔からは『必ず来い』と言っているような笑顔だった。

これが、ダンテ達が日本に行く事になった依頼である。

「ふああ、ヨイシヨつと」

『ガチャ……ブォーンブォーン』

先月の事を思い出して、ちよつと昼寝をしていたダンテは、キャバリエーレに跨り直しハンドルをひねり、エンジンをふかしながらまた走り出した。彼の日本への道はまだ、始まったばかりである。

その後、彼が日本に着いたのはそれから4時間後の、夜になった頃だったと言う。

キャラ紹介※ネタバレ注意※

『キャラ紹介』

名前・ダンテ

身長・178cm

職業・便利屋／デビルハンター悪魔狩り

かつて、人間界を魔界の王の侵攻から救った悪魔『スパーダ』と人間『エヴァ』との間に生まれた半人半魔である。見た目は、髪の毛は白く髭を生やしている。体系は引き締まっておりかなり筋肉質である。性格は、超が付くほどの面倒くさがりで大胆。だが、受けた依頼はきちんと最後までやり遂げるなど、意外にも真面目である。更に、母譲りの優しさも兼ね備えており信頼ができる人間には優しく接している。

いつも、挑発をする様な喋り方をしており、それを楽しさの一つとしている。そして、どんなに強い人間・悪魔でも挑発をしている。その為に、いつも以上に痛めつけられる事がある。しかし、それさえも楽しさに変え敵が強ければ強い程、挑発をする回数も増える事が多い。

Devil May Cryのオーナーで、様々な依頼を受けて報酬を受け取る生活をしている。簡単に言えば、便利屋。しかし、裏では悪魔狩りを生業としており、これまでも様々な悪魔を討伐してきた。しかし、ここ近年は悪魔狩りの仕事はなく、雑用の依頼などをこなして経営をしている。だが、店の状況は相変わらず、借金まみれでよく水道や電気を止められる事が多い。一度悪魔はもういないのではないのかと言われた事もあるが、ダンテ曰く『悪魔は、死なない。俺がいる限り』と言っているらしい。

名前・バージル

身長・177cm

職業・悪魔狩り

ダンテと同じく、悪魔スパードの息子で『半人半魔』である。そしてダンテの兄に当たる。見た目は、髪の毛はダンテと同じ様に白くダンテとは違い、上げている。だが、髪の毛を下ろせばダンテと瓜二つと言われている。体型は、ダンテとは違いかなりの痩せ型でスラっとしている。性格は冷静沈着で、物事をよく考えて最適な考えを導き出す性格をしている。だが、意外にも大胆な性格もしておりダンテとよく似ている。

母のエヴァがムンドウスに殺された事で、悪魔達に復讐心を抱いており悪魔を倒す為なら、どんな力をも手に入れようと世界を見て回っていた。そして、悪魔になったり魔王の姿になった事もあった。しかし、その度にダンテやその仲間と争い、負ける事が多かった。

日本政府が、バールジルの居場所を突き止めダンテと協力し、一夏のボディガードを頼んだが『協力はしない』と言われ消えていった。しかし、一夏が悪魔に襲われピンチになった際に、再び現れその後協力をする事になった。ちなみに、報酬を望んでおりダンテと本気でたたかえる場所らしい。

名前・織斑一夏

身長・172cm

職業・学生

世界で初めて『I・S』を男で動かした人間として、人間からも悪魔からも狙われる存在となる。見た目はかなりのイケメンで、女性から見ればかなりタイプが多そうな顔をしている。性格は比較的、真面目で誠実な人間である。誰に対しても平等に接して、色んな人に好まれてる性格である。しかし、誠実である為か密かに自分寄せられている『恋心』は超が付くほど鈍感で、周りから『朴念仁』と呼ばれている。

過去に、誘拐をされた経験を持つ。更にその日がたまたま姉の大事なI・Sの試合があったのにも関わらず助けに来たことで不戦敗に

なり、世界からバッシングを受けた。彼はそれがトラウマになっており、『自分が力がないのが悪いと言い』ボディーガードであるダンテに頼み込み様々な修行をこなしている。ただ、その修行がダンテ基準である為、気絶をする事が多々ある。

名前・トリツシュ

身長・164cm

職業・便利屋／悪魔狩り

ダンテの店、『Devil May Cry』で働くのと同時に、ダンテに好意を寄せている女の1人である。見た目は、髪の毛は金髪。何時もセクシーな服装を好んで着ている為、身体のラインが常に出ています。性格は、気まぐれで奔放であるとの同時に貰う物はきちんと貰うという性格をしています。しかし、その性格とは別に子供っぽい所もあり、今回の依頼で日本に行ける事を嬉しいと内心喜んでいる所がある。

彼女は、最初ダンテの母の仇である魔界の王『ムンドウス』の討伐を依頼した。その依頼を受けダンテは、ムンドウスがいるであろうマレット島に向かい順調にムンドウスを追い詰め行った。しかし、トリツシュはムンドウスがダンテの母エヴァを似せ、作り出した『純粋な悪魔』で自分を利用しようとしている、とダンテは知ってしまう。トリツシュは、ダンテに利用している事がバレたため、彼を裏切り戦う事になってしまう。しかし、悪魔達に裏切られ襲われた際にダンテが身を呈して守ってくれた事で改心をし、ダンテに協力をする事を決意するのであった。

名前・レデイ（メアリ・アン）

身長・164cm

職業・便利屋／悪魔狩り

トリツシユと同様、『Devil May Cry』で働くと同時にダンテに好意を寄せている1人である。見た目は、髪の色は黒色。目の色は片方ずつ違うオッドアイである。身体は、出るところは出て引つ込むところは引つ込んでいる。性格は自由に気ままに物事を捉えていることが多いが、冷静新着な考えを持つなどしつかり者である。更に、トリツシユ同様に子供の様に無邪気なところもある。

彼女は、本当の名前はメアリ・アンといい母のミドルネームを引き継いでいる。しかし、ダンテに『レディ』と呼ばれ気に入り後に、自分で名乗るようになる。ダンテとは、初めて会った際に銃を頭に打つたりロケットランチャーブチ込んだことがある。その理由は、父であるアーカムが母のカーリーナを生贄として、悪魔の力を手に入れたことを恨み父とそれを変貌させた悪魔たちを始末することを胸に誓い生きてきた。そして、アーカムの居場所を突き止め復讐へとやってきた。その際ダンテに会い悪魔だと分かり復讐の相手の1人である為、最初は敵対していた。しかし、ダンテが自分が知っている悪魔とはかけ離れている事、そして何度か救われていた事でダンテに惚れ、Devil May Cryの一員として働くことになった。

名前・篠ノ之箒

身長・160cm

職業・学生

所属クラス・1-1

織班一夏に好意を寄せている1人であり、幼馴染である。性格は、曲がったことが大嫌いでもっすぐな性格をしている。見た目は、髪の毛を後ろで括つてありポニーテイルのような感じである。体系は、箒自身はあまりよくはないと思っているが、周りから見ればそんなことはなくとても魅力的である。

一夏と昔から仲が良く、一夏が唯一の友達だったためいつも一緒に遊び大切に思っていた。しかし、姉である篠ノ之束の影響で引越す

ことになり、最後の挨拶もできずに去って行ってしまおう。だが、I. S 学園に入学を決めた際に、一夏が I. S を動かしたことで入学することとなり、再び再開することになる。

名前・凰 鈴音

身長・150 cm

職業・学生

所属クラス・1-2

織班一夏に好意を寄せる1人であり、もう1人の幼馴染である。性格は、気性が激しく一夏に対しては特に強く当たる。簡単に言えば、ツンデレである。見た目は髪の毛を横で2つに括っており、ツインテールである。体系は非常に小柄だが、育っているところは育っており健康的である。しかし、貧乳なのが自分的に弱点らしい。

一夏とは、小学生の時に知り合った。箒が引越した後に入ってきたために箒は、存在を知らなかった。中国からの転入生で、それだけに遭い悲しんでいたところを一夏に救われ仲良くなり、恋心を抱いている。

子供の頃よく遊んでいたが、親の都合で引越していなくなり音信不通になっていた。しかし、I. S 学園に中国代表候補生として編入をしてきて再会を果たす。

名前・セシリア・オルコット

身長・156 cm

職業・学生

所属クラス・1-1

織班一夏に好意を寄せている1人であり、イギリス代表候補生。性格は、プライドが高くあるお嬢様のような性格。なので、絶対に勝てない相手だろうと負けを認めず、諦めない。見た目は、髪の毛は金髪でベリーロングである。更に目は、綺麗な碧色をしている。体型も、ボンキュボンととても魅力的である。

男性は昔から苦手で、父親の影響で苦手になった過去を持つ、その

為一夏にも最初は強く当たっていた。しかし、一夏とのI・Sの勝負でセシリアが望んでいた『理想の男』の想像と重なり、それ以降一夏に惚れてデレデレである。

名前・シャルロット・デュノア（シャルル・デュノア）

身長・154cm

職業・学生

所属クラス・1-1

織斑一夏に好意を寄せいる1人であり、フランスの代表候補生。性格は、穏やかで控えめである。誰にも平等に接して優しさも兼ね備えている。しかし、その反面怒らせるととても怖い。ダンテや一夏もその怖さを知っている。見た目は、髪の毛を後ろで束ねており、中性的な顔立ちをしている。

フランスのI・S企業『デュノア社』社長の1人娘である。最初は、一夏に続く男の操縦者として、学園に入学をして来た。一夏やその他の人間も男として見ていたが、後に女だと分かり焦っていた。

男して入学したのは、理由があり、デュノア社の命令で一夏のI・S『白式』のデータを盗めと言われており、一夏との接触をしやすくする為男として入学をして来た。しかし、一夏とダンテに正体がバレ国に帰る事になるかもしれないと言ったが、一夏がそれを止めた事で居場所を作ってくれた一夏に好意を抱いた。

名前・ラウラ・ボーデヴィツヒ

身長・148cm

職業・学生／シユヴァルツェ・ハーゼ隊長

所属クラス・1-1

一夏と千冬を溺愛する1人であり、ドイツの代表候補生。性格は、頑なに人を寄せ付けない性格をしていたが、一夏と千冬の影響でその性格が柔らかくなった。見た目は、髪の毛を結ばず下に下ろしており、銀色である。目の色は、片方が赤でもう片方が金色のオツドアイ

である。体型は小型ながらも健康的な体型をしている。

実は、人口人間であり作った人間達から『役立たず』と言われ絶望していた。しかし、千冬に救われた事で千冬の事を心酔している。同時に千冬の圧倒的な強さに憧れており、その名誉を汚す原因となった一夏を嫌っていた。だが、ラウラの中に埋め込まれた『VTシステム』の影響で暴走した際一夏に救われて、一夏に好意を寄せる事になる。

名前・織斑千冬

身長・174cm

職業・I・S学園の教師

織斑一夏の姉であり、I・Sの大会で世界最強の異名を持つ。性格は、厳しくクールな性格をしている。見た目は、髪の毛は短く肩までの長さしかない。体型は、もちろん出る所は出て引つ込む所は引つ込んでいる。

I・S学園に教師として、働いておりそれは一夏も入学するまで知らなかった。学園の中では、とても厳しく一夏に対しても一切容赦をしない。しかし、一夏に危機が及ぶ事があると何処からでも飛んでくるほどの、一夏の事を大切に思っている。

元I・S日本代表で第1回I・S世界大会『モンド・グロツソ』で圧倒的強さを誇っていた事から、世界最強の女と異名を持つていたが、第2回で一夏が誘拐をされた事から、突如I・S操縦者を引退し一夏捜索に協力してくれたドイツに行っていた。その後は、上記の通り学園で働いている。

名前・河原翔

身長・156cm

職業・日本政府職員

ダンテに一夏のボディガードを頼む為やってきた日本政府の職員。性格は、真面目でどんな事に冷静沈着であるが、外面では太陽のように眩しい笑顔でもても内面では氷のように冷たい。その事から、『冷たい太陽』と呼ばれていた。見た目は、髪の毛を短いながら後ろで

結んであり、中性的な顔をしている。

男の様な名前と振る舞いから男と思われがちだが、実は女である。更にI・S学園にいた事があるが、とある理由で辞める事になった。I・Sを使える事が出来る。しかし、扱い方が荒い為日本政府に止められている。

過去に一夏と会っていた事があり、その際に一夏には『男なのに、スカート履くな』と言われ、傷ついた経験を持っている。その為一夏の事は、多少嫌っている。